

- 開 催 日：3月3日(金) 10:30~12:00
- 参 加 者：日亜化学工業(株)社員 67名
- 説明者(随行者)：那賀川河川事務所長(徳島県、阿南市、那賀川河川事務所)

○説明内容

1. 近年の水災害対策について

- ・気候変動による影響や社会への変化を踏まえ、流域の関係者全員が協働して「流域治水」へ転換する重要性を説明。

2. 那賀川流域の概要と水災害に係る特性

- ・那賀川流域の概要や地形を踏まえ、人々の暮らしの場が旧河道や低地に進出し、水害リスクが増加している状況を説明。

3. 治水の経緯と下流域の水害リスク

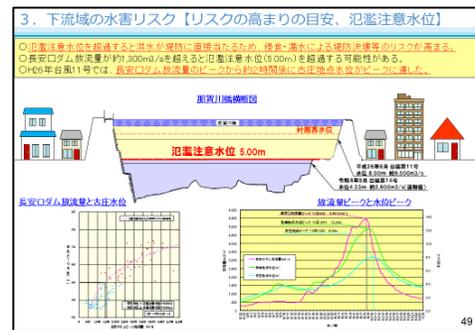
- ・下流域では、「ガマン堰」を撤去し築堤を行い、那賀川の洪水を分離したことにより岡川周辺の治水安全度は飛躍的に向上したが、侵食や漏水による水害リスクが高まる場合があり、その目安である「氾濫注意水位」を洪水時には確認するよう注意喚起。

4. もし那賀川の堤防が決壊したら？

- ・浸水想定区域図や浸水ナビ、水害リスクマップ等を活用し、平時より水害リスクを認識することが重要であることを説明。



資料説明状況



説明資料

■勉強会で出された質問等

- ・気候変動に対する検討や漏水対策、浸水ナビに関する質問があり、現在の状況等を説明した。
- ・日亜化学周辺について、周辺住民の意見や想定外の洪水による浸水に対応するため、対策の計画時には協力して欲しいとの意見もあった。